

平成30年度第2回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料収集部会

平成31年1月29日（火）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午前9時54分開会

藤生文化施設担当課長：それでは、皆様おそろいになりましたので、少し時間が早いですが、ただいまから始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、平成30年度第2回「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料収集部会」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長の藤生と申します。議事に入りますまで司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

まず初めに、東京都生活文化局文化施設改革担当部長の工藤から御挨拶を申し上げます。

工藤文化施設改革担当部長：工藤でございます。どうもおはようございます。

本日は大変お忙しい中当委員会に御出席いただきまして、まことにありがとうございます。

今回の収蔵委員会でございますが、購入資料33点に加えまして、御寄贈の申し出をいただいております1,005点も含めてお諮りさせていただきます。当館に所蔵する資料として妥当であるかどうか、委員の皆様専門的な視点から御審議いただければと存じます。

収蔵品をさらに充実することによりまして、2020大会やそれ以降を見据え、江戸東京の魅力を国内外へ強く発信していきたいと考えております。

また、こちらにポスターもございますけれども、いよいよ4月から特別展のほうも再開となりますので、御期待いただければと思います。

本日、何とぞよろしく願いいたします。ありがとうございます。

藤生文化施設担当課長：続きまして、東京都江戸東京博物館館長の藤森から御挨拶を申し上げます。

藤森館長：毎度のことでございますけれども、今回も江戸から近代までいろいろ、特にことし50年を迎える霞ヶ関ビルの充実した写真が入っております、大変うれしく思っています。

審査のほど、よろしく願います。

藤生文化施設担当課長：続きまして、本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。

私の向かって左の席から順に御紹介させていただきます。

大口委員でございます。

根崎委員でございます。

松尾委員でございます。

神谷委員でございます。

山梨委員でございます。

小島委員でございます。

武田委員でございます。

中村委員でございます。

金子委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館副館長の小林でございます。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

それでは、これから議事に入りたいと思いますが、まずは委員長を選任したいと思いません。

当部会の委員長は、委員の方々の互選で定めることとなっております。委員長の選任をお願いいたしたいと思いますが、いかがでしょうか。

お願いします。

松尾委員：委員長は大口先生、副委員長は金子先生で、前回と同じでよろしいと思います。

（「異議なし」と声あり）

藤生文化施設担当課長：それでは、委員長を大口委員、副委員長を金子委員をお願いしたいと思いません。

それでは、席にお移りいただきますよう、お願いいたします。

（大口委員、委員長席へ移動）

（金子委員、副委員長席へ移動）

藤生文化施設担当課長：委員長に進行をお願いする前に、当部会の公開について説明させていただきます。

当部会は「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第12の規定により原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上に公開しております。しかしながら、議事内容の公開につきましては、資料収集決定前の審議の段階で対象資料の詳細を公開することが現在の資料所有者の方に不利益を生じさせるおそれがあること、また、本日実見する資料の実物は、あくまでも審議の参考用に所有者から借用している段階であることから、事務局といたしましては、前回の資料収集部会と同様、委員の皆様にお諮りした上で、本日の段階では冒頭のみ公開し、議事内容は後日議事録により公開することが適当と考えております。

なお、当部会の議事録の公開に当たりましては、委員の皆様に事前に確認させていただき、その上で公開としたいと思いません。

非公開にするには、要綱第12の第1項（2）及び第2項（2）の規定によりまして、部会での決定が必要になりますので、今回についても皆様でお諮りいただければと思っております。

それでは、大口委員長、金子副委員長、議事の進行につきまして、よろしく願いたします。

大口委員長：今、選任いただきました大口です。よろしく願いたします。

今年度の資料収集部会の公開の是非について、最初にお諮りしたいと思いません。

今、事務局のほうから御説明がありましたように、これからの議事内容については、前回同様非公開が適当だという御意見がございました。これも、前回までもこの委員会でも何度かお諮りしたかと思うのですが、今回も皆さんの御意見を伺いたいと思います。何か御意見があれば伺います。

特に異議がなければ、これからの議事内容については非公開ということで、後日、議事録を公開するというにさせていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

それでは早速、議事に入りたいと思います。

まず、事務局から今年度の資料の収集方針と、本日審議いたします収集予定資料の説明について申し上げます。

飯塚事業企画課長：かしこまりました。

説明の前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、一番上に会議次第がございます。

資料1としまして、委員名簿がA4で1枚ございます。

資料2、収蔵委員会設置要綱がA4で2枚ございます。

資料3「東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針」がA4で1枚ございます。

資料4「平成30年度東京都江戸東京博物館における収蔵品購入に関する方針について」が、A4で1枚ございます。

資料5「平成30年度第2回資料収蔵委員会（収集部会）説明資料」がA4で3枚ございます。

資料6「平成30年度 第2回 資料収蔵委員会付議資料」が、A3の横版で48ページまでページをナンバリングしている資料がございます。

なお、お配りしました名簿に誤りがございましたらば、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

また、お手元の資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後回収させていただきたく存じます。

それでは、今年度の資料の収集方針を御説明いたします。

資料3をごらんください。まず、この資料にございますように、「東京都江戸東京博物館資料収集具体的方針」にのっとりまして、当館の展示及び調査研究に供する資料を収集する方針をとっております。

続きまして、資料4をごらんください。こちらの資料は、平成30年度の収蔵品購入に関する方針について記載してございます。今回は、この中でも特に2つの項目に重点を置き、資料の収集を図りたいと考えております。

第1に、購入方針の2に基づき、江戸東京の歴史と文化の魅力を国内外に発信できる資料でございます。

第2に、方針3（1）に基づき、常設展や当館の性格に合致した継続的事業に繰り返し生かすことが可能な事業でございます。

続きまして、今回御審議いただく資料について説明いたします。A3サイズ横版の資料6をごらんください。

今回は、委員の皆様へ審議していただく案件といたしまして、購入を予定している資料と寄贈を予定している資料がございます。資料の内容はこの後詳しく御説明申し上げます。

それでは、資料を2枚おめくりください。3枚目の紙の右下に1とナンバリングがございます。このページが今回の付議資料の総括表でございます。付議資料の総点数は1,038点でございます。

まず、購入資料について見ますと、内訳は、標本資料が30点、映像音響資料が3点、合計33点でございます。分類別では、標本資料のうち絵画が13点、典籍が1点、文書類が14点、印刷物が2点でございます。映像音響資料は、静止画が3点でございます。

また、寄贈資料について見ますと、内訳は、標本資料が729点、映像音響資料が276点、合計1,005点でございます。分類別では、標本資料のうち建造物が5点、絵画が23点、書籍が156点、工芸品が5点、生活民俗が29点、典籍が2点、文書類が493点、印刷物が16点でございます。映像音響資料は、静止画が276点でございます。

この後のページに、購入及び寄贈資料の入手先別と分類別の点数を一覧にしてございます。

続きまして、主な資料について個別に御説明いたします。

A4縦版の資料5をごらんください。また、先ほど御覧いただいたA3横版の資料6の4ページ以降に資料リストを記載しております。この表の左端に「No.」と書いてある5ケタの番号が説明番号と同じ番号ですので、あわせて御参照いただければと存じます。

では、まず購入資料から御説明いたします。

「1. 徳川秀忠像」、説明番号は資料6のリストの4ページのNo.1でございます。

この作品は第2代将軍徳川秀忠の肖像画で、京都知恩院所蔵の肖像を、幕末期に復古大和絵の絵師冷泉為恭が模したものとされています。知恩院は、徳川家康と秀忠により大規模な伽藍が造営された、秀忠ゆかりの寺院でした。

徳川歴代将軍の中で、東照大権現として神格化された初代徳川家康には数多くの肖像が残されています。しかし、2代秀忠以降になると、肖像画の数は非常に少なくなってきました。本資料は、徳川宗家に残される秀忠の紙形の風貌に酷似していることから、秀忠像を忠実に再現した数少ない肖像画と考えられます。常設展示「江戸城と町割り」で、都市江戸を実質的につくり上げた武家の棟梁の姿を紹介することができます。

続きまして、「2. 版画・刷物類」でございます。説明番号は資料6のリストの4ページのNo.2～8までとNo.20でございます。

今回は版画・刷物類8件を収集する予定です。

まず、《當国三ツの狩 ほたるかり》は、荒磯模様の着物に三筋の手拭いと虫かごを持つ八代目市川團十郎が螢を見る、涼しげな絵柄の螢狩りの団扇絵でございます。次の《一步線香即席噺 三笑亭可楽 きむすめ》は、即席噺で人気を博した三笑亭可楽の地口を記

した錦絵です。このほか、安政大地震後に大評判を呼んだ、松本喜三郎による生人形興行チラシと出し物の一つ《糸の仙人》の錦絵があります。いずれも江戸の文化・芸能の諸相を物語る資料であり、常設展示「四季と盛り場」「江戸の美」などで活用できます。

また、明治5年に発生した銀座大火前の江戸の様相を物語る尾張町を描いた錦絵、文明開化期のさまざまな職業を紹介した「諸工職業競」シリーズで、未所蔵だった《時計師》、そして、明治16（1884）年7月に上野熊谷間の鉄道が開通した当時の上野駅の仮木造駅舎を描いた錦絵の3種からは、明治前期の東京の生活や景観が変化していく様子が見てとれます。常設展示「文明開化東京」にふさわしい資料です。

続きまして、「3. 幕臣吉川家文書」について御説明いたします。説明番号は資料6のリストの4ページのNo.10～19でございます。

今回は古文書計14件を収集する予定です。

これは、日本画家で蔵書家でもあった吉川霊華が旧蔵した幕臣吉川家に関する文書類です。各文書には「吉川蔵」等の蔵印や「吉川扣」といった識語があります。霊華の祖父幸七郎は勘定組頭を勤め、父圭三郎は広敷番之頭等を歴任しました。本資料はこの二代が携わった諸々の職務に関する記録です。天保期から幕末にかけての幕府財政に関する資料や、明治維新後に一度京都へ帰った静寛院宮（和宮）上洛に関する雑記等、内容は多彩です。常設展示「江戸城と町割り」や「江戸から東京へ」で活用が見込まれます。

続きまして、「4. 近代資料」について説明いたします。説明番号は資料6のリストの4ページのNo.9とNo.21でございます。

今回は2件の資料を収集する予定です。

《東京生活素描》は、翻訳家として活躍した井上十吉が、東京の特徴的な職業や職業人、それらに関連する人々の生活を英文と多数の図版で紹介したものです。当時の東京の生活をうかがえる資料として、常設展示「開化の背景」などでの活用が見込まれます。

また、《オリムピック競技場》は、第11回ベルリン大会における建築施設の全貌と、第12回東京大会の建築施設の計画試案が、豊富な図版とともに記されています。幻となってしまった第12回東京大会の準備背景を伝える資料として、オリンピックの歴史を紹介する展示などで活用することができます。

最後に、「5. 古写真」について説明します。説明番号は資料6のリストの7ページ、No.1～3でございます。

今回は明治初期から前期にかけて撮影された古写真3点を収集する予定です。

本資料は、材料に卵白を用いた鶏卵紙でプリントされた写真で、幕末の開国後に来日した外国の写真技師から技術を取得した日本人が作成しました。

永代橋を写した1枚は、内田九一（1844～1875）の撮影とされます。対岸の河岸場までが構図に入っており、江戸時代の橋の構造を詳細に知ることができる貴重な資料です。

ほかの2点は、日下部金兵衛（1841～1932）による明治前期の築地居留地と銀座の町並みを写したものです。築地居留地の写真は、錦絵などによく描かれる海を背景にしたもの

とは逆方向である明石橋から撮影された珍しい構図です。また、銀座の写真は、明治20年ごろの町並みで、中央を馬車鉄道が走る様子が写されています。銀座の馬車鉄道は明治36年に電気鉄道へ移行しますので、移行する前の銀座の町並みがわかる貴重な資料です。常設展示「文明開化東京」などで錦絵と比較するなど、効果的な展示ができます。

続きまして、寄贈資料の説明に移りたいと思います。

A3横版の資料6の8ページをごらんください。

今回、資料を御寄贈いただくことになる方々は18名いらっしゃいます。そして、次ページ以降に寄贈資料の入手先と分類別の点数を一覧表にさせていただきます。

続きまして、主な資料について個別に御説明いたしますので、A4縦版の資料5とA3横版の資料6をごらんください。

まず、「1. 高橋泥舟関係資料」でございます。寄贈者番号は資料6のリストの8ページ、No.1でございます。説明番号は標本資料が18～37ページのNo.1～589、映像音響資料が40ページのNo.1～3でございます。

本資料は勝海舟・山岡鉄舟と並ぶ「幕末の三舟」の一人、高橋泥舟（1835～1903）の関係資料です。大きく分けて、幕臣高橋家の伝来資料と泥舟の書跡コレクションからなります。

旧蔵者の故河越關古氏（1928～2006）は、昭和期の著明な書家中村素堂に師事し、資料を紹介・解説する大著『泥舟』を著しました。旗本の高橋家の先祖書や書簡などの家文書をはじめ、泥舟の日記や紀行文、書画など多数の資料が収集されています。江戸無血開城に尽力しながら維新後は隠棲し表舞台に立つことがなかった高橋泥舟の人となりや彼の周辺を知ることができる非常に貴重な資料でございます。常設展示「江戸から東京へ」をはじめ、さまざまな企画展に活用されるのみならず、幕末維新时期研究に大きく寄与することが期待されます。

続きまして、「2. 石井良助コレクション古文書」でございます。寄贈者番号は資料6のリストの8ページのNo.8でございます。説明番号は14ページのNo.58とNo.59でございます。

本資料は、日本法制史の泰斗・故石井良助氏（1907～1993）の旧蔵資料の一部です。昨年、石井氏の著作を手がけていた出版社から発見され、石井氏の御遺族の御厚意により当館へ寄贈されることとなりました。2冊とも、天保改革期における幕府の町触や達書などを集めた見聞集ですが、中には現在刊行されている町触集成におさめられていないものも見受けられます。資料には数多くの附箋がつけられ、石井氏がこの資料を翻刻刊行する御意思があったように伺えます。

「石井良助コレクション」は当館の最も代表的な収蔵資料の一つであり、今回の収集によりさらに内容を充実させることができます。

続きまして、「3. 丹波国園部藩小出家下屋敷絵図」でございます。寄贈者番号は資料6のリストの8ページ、No.11でございます。説明番号は15ページのNo.65でございます。

本資料は、浅草聖天町にあった丹波国園部藩小出家の下屋敷絵図です。この屋敷地は、

天保13（1842）年正月に幕府によって上知され、その跡地は、堺町にあった中村座と隣の葺屋町の市村座、そして、木挽町の河原崎座（森田座）の移転先となりました。時に、天保の改革による歌舞伎への厳しい統制が行われており、前年10月に中村座・市村座が火災で焼失したのを機に、幕府は歌舞伎小屋を江戸の中心部から離れた浅草郊外に出す施策に出たのでした。以後、この地は猿若町と呼ばれて、明治期に入るまで三座の劇場がここで興行いたしました。

本資料は後年に作成された絵図と思われませんが、総坪数1万78坪といわれた広大な敷地に回遊式庭園がしつらえられていた様子を具体的に知ることができる貴重な資料です。常設展示「江戸城と町割り」「芝居と遊里」などで活用することができます。

最後に、「4. 霞ヶ関ビル建築等写真」でございます。寄贈者番号は資料6のリストの8ページ、No.4でございます。説明番号は40ページのNo.5でございます。

本資料は、日本における超高層ビルの先駆けとして知られる、霞ヶ関ビルディングの工事風景を記録した写真群です。建築写真家の佐藤翠陽氏が事業主体からの委託を受けて撮影したもので、旧霞会館の解体から整地、起工、そして竣工に至るまでのおよそ4年にわたる工事の経過が克明に写されています。

また、ビル周辺の空撮やほかの地域から見たビルの様子、工事途中のビル内からの景観などもあわせて撮影されています。昭和40年代初頭の東京の風景を多面的に記録した資料としても高い価値があります。常設展示「現代の東京」コーナーなどで活用することができます。

続きまして、今回の委員会では報告事項が2点ございます。

まず、先般の第1回資料収蔵委員会にて御審議いただきました「関東大震災コレクション」でございますが、図書に分類される資料を収集いたしました。その図書の資料を資料6のリストの41～46ページに記載してございますので、御報告いたします。なお、この後の実見でそれらの資料の一部を展示してございますので、ごらんいただければと思います。

また、平成29年度に購入いたしました定期刊行物の購入状況を、資料6の最後の46～48ページに挙げさせていただきました。

最後に、封筒のほうを御説明させていただきます。お手元に封筒があるかと思いますが、これの中に展示会の紹介のチラシを入れてございます。一番上に企画展「市民からのおくりもの」、平成28・29年度の新規の収蔵品を展示いたします。こちらの会期のほうは3月19日から5月6日までで、ゴールデンウィーク中にも開催いたしますので、ぜひごらんいただければと思います。

また、小さい封筒のほうには、特別展「江戸の街道をゆく」の展示会チケットを入れてございます。こちらは4月27日から6月16日まで開催いたします。特別展は工事でお休みしておりましたので、1年半ぶりの開催となります。こちらは館の収蔵品から展示会を構成しておりますので、あわせてごらんいただければと思います。

説明は以上でございます。

大口委員長：ありがとうございました。

御説明がありましたけれども、今の御説明で何か簡単な質問がありますでしょうか。

特になければ、今、御説明があった資料について、別室に展示されておりますので、これから資料を見にいきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

大口委員長：それでは、皆さんおそろいのようなので、議事を再開させていただきます。

恒例によって、委員の先生方から資料をごらんになった感想、質問も含めて御意見を賜りたいと思えますが、前回と逆のほうということで、今回は中村委員からいただけますでしょうか。

中村委員：今回は寄贈資料に数多くの魅力的なものがありまして、あらためまして寄贈先としての江戸博への信頼や江戸博の知名度の高さを再認識いたしました。

大口委員長：よろしいですか。

武田委員、お願ひします。

武田委員：この収蔵資料方針に基づいていろいろ見せていただきました。

中村委員がおっしゃっていた寄贈資料の高橋泥舟の資料の中で、お子さまのやりとりの小さな書きつけも残している点で、歴史資料の幅の広さを感じました。

また、写真資料について、霞ヶ関ビルの建築写真ともう一点、佐藤元紀さんの写真の寄贈資料、これも当時の東京の様子を具体的に目の当たりにできるということで、今後の展示や研究に大いに活用されるのではないかと思ひました。

それと、購入資料の内田九一と日下部金兵衛の鶏卵紙の古写真なのですが、このくらい大きな写真は珍しいのではないかなと思ひました。内田九一も日下部金兵衛も人物は撮っているのですが、風景はあまり見当たりません。このような風景を記録して丁寧に彩色した、保存状態もよい写真を錦絵と比較して展示するというこちらの構想は、観覧者に解りやすく非常に有効だと思ひます。

最後に、扉の寄贈資料ですか。このような建築資料というか民俗資料は残りにくいものです。近所の方の通報がきっかけでこちらに持ち込まれたとのことですが、扉全体の保存状態が良く、取っ手やノブもきちんと残っています。このような住民を巻き込んだ収集の仕方も、非常に評価されると思ひます。

以上です。

大口委員長：ありがとうございました。

小島先生、どうぞ。

小島委員：拝見いたしまして、いずれも興味深く、収集に値するものだと思ひました。

ただ、例年この1月の会ときは寄贈資料が非常に多くて、特に生活に密着した近現代の資料が非常にあっておもしろいのですが、今回はややそういうものが少なかったかなと

いう気がいたしまして、それは当然寄贈の波がありますから、たまたまかなと思うのですが、例えば明星味付ラーメンのパッケージとかは非常に面白いなと思って、もっとたくさんあるかと思ったら1点だけだったのです。

展示に直接使えるかどうかということは別にして、生活自体のアーカイブをつくっていくという役割が博物館にありますので、そういったものを積極的に収集していただいたらいいなと思っております。ただそれは、それを軽視しているということではないので、きょう見たものでの単純な感想です。

あと、個別のものについて幾つか興味を持ったものをコメントしますと、まず、1番の《徳川秀忠像》は非常に価値があるものだと思います。解説にもありますけれども、秀忠像は非常に少なく、将軍の挿絵に使うときも大体この宗家の紙形を使ってしまって、色つきのものがなかなか表に出てきていなかったのが、今回の彩色された、きちんと描かれたものが使えるようになったということは大変大きな意味があると思います。

これは知恩院に現存する、恐らく在世時、箱書きに寿像と一応書いてありましたけれども、江戸時代のものがもとになっているらしいということですから、秀忠を描いた当時の将軍の肖像画のあり方として非常に研究の価値があると思いますし、特に頭上のほうに日月と星と五色の雲と蓮が描いてあって、ああいう描き方が普通一般的なものなのか、何か特殊な意味があるのか、そういったところも非常に興味を持たれると思います。

もう一つは、これも箱書きですけども、恐らく幕末ごろ、江戸後期の作品だと思われませんが、そのころにあえて冷泉為恭がこれを描いたということの意味がもう一つあると思います。非常にきちんとしてつくっているのだから、単純な模写というよりは何か使用する目的があつてつくつたのだらうと思われそうですが、例えば当館の例でも、旗本本多家の肖像画、あるいは大久保家の大久保彦左衛門の肖像画は江戸後期、数字はうろ覚えなのですが、たしか大久保彦左衛門の150回忌か何かのとき、要するに、子孫が集まって祭礼をするときにつくつたというような裏書きがあつたのです。

ですから、江戸後期になって創設当初の祖先を検証するような動きというものがどうもあるように思われますので、そういったものと関連するのかどうか、そういった制作当時の意味あるいは目的という意味でも非常に興味深いものがあると思いますので、その二重の意味で今後研究する価値が非常にあると思いました。

それから、寄贈の1番の高橋泥舟もまとまった資料が入手されて大変好ましいと思います。これもたまたまですけども、当館が最近、埼玉県飯能市の絹織物の買継商のコレクションを収蔵させていただいたのですが、その中にも高橋泥舟の書が1点入っていて、そういったコレクションの対象になっている、かなり人気のある人なのだということに最近気づいたばかりでしたので、これが出てきて大変興味深く思いました。

それから、寄贈の3番の園部藩の小出家の下屋敷図も非常に貴重で面白いものだと思います。伺つたところだと、1つは、下屋敷は下屋敷と言いながら全体が回遊式庭園そのものだということも非常に面白いですし、この屋敷のこういった図というものは

ほかになかったということですので、当時の様子がわかる。これも復元してみたくなくなってしまいますけれども、そういう江戸時代の大名庭園の失われた図が出てきたということで、非常に価値があると思います。

こちらの江戸東京博物館では江戸関係の絵図類を継続して収集していらっしゃいますので、そういった意味でもこういったものがまた加えられるということは大変好ましいと思いました。

以上です。

大口委員長：ありがとうございました。

それでは、山梨委員、どうぞ。

山梨委員：先に工芸のほうから申し上げますけれども、美術工芸を中心として拝見させていただきましたが、秀忠像は非常に細やかな筆であって、今のお話を伺いますと歴史的にとっても価値のあるものだということですので、購入についてはふさわしいものと思えますけれども、作者については研究の余地があるかなと拝見いたしました。

それから、生人形は20番の興行のチラシのようなものも含めまして、写実という表現に対して人々の目の欲望というものが非常に高まったことのあかしにもなりますし、版画の状態も大変よいものでしたので、購入にふさわしいと思えます。

文書類ですけれども、吉川家というのは私ども美術の者にとっては吉川霊華関係で、吉川家というのがどういう家だったかということがわかるという意味で、美術のほうからしましてもとても興味深いものと思えました。

また、9番の《SKETCHES OF TOKYO LIFE》ですけれども、生活を確かにあらわしているということもありますが、中に入っております挿絵、版画などもなかなか興味深いものでしたし、また、日本の生活を海外の方にどのように紹介するかということで、占い師ですとか人力車、相撲、芸者が出ていて、いかにもオリエンタリズム風の紹介の仕方が興味深いなと思えました。

それから、写真につきましては、内田九一、日下部金兵衛は両方とも非常に重要な写真師でありますし、状態もとてもよいものでしたので、非常に収集にふさわしいと考えます。

寄贈のものなのですけれども、是真関係は郷家先生が非常に熱心に御研究になった資料で、是真の制作を追っていくために非常に貴重な資料だと思えました。次の川村清雄の関係ですけれども、こちらは川村清雄関係のものをたくさん収集しておられて、その息子さんの清衛さんに宛てられたものが多いかと思えますけれども、川村家というのは幕末から明治にかけても非常に重要なお家でしたので、これらのものも収集にふさわしいものと思えます。

それから、高橋泥舟関係では、7番の《山岡鉄舟像》ですね。松本楓湖が描いたものなのですが、楓湖というのは西洋風の写実表現というものを取り入れた絵師として重要な人間なのですけれども、それが非常によくあらわれていて、また、楓湖との交友関係もあらわすものとしておもしろい作品だなと思えました。

以上でございます。

大口委員長：ありがとうございました。

先生、どうぞ。

金子副委員長：きょうは余り出番のあるものがなかったので、本当に感想だけなのですが、最初にきょうおもしろいなと思ったのは、丸メンコがちょうど私たちの年代で、皆さんは御存じないと思いますけれども、あの丸メンコはメンコの中でも高級品のメンコで、その高級品のメンコを安いぺらぺらの紙みたいなもので、大きくて安いのですが風がばあっと起きるので、高い丸メンコを安いメンコで獲得するというのが私たちのやり方で、さすがに先生のコレクションだけあっていいメンコのコレクションだと思いました。デン助だとか赤胴鈴之助と、今の人には全く認知のないような人がいっぱい出ていたり、大変興味深く拝見しました。

それから、前川國男のドアですよ。僕の勤めている笠間にも、伊藤豊雄さんの最初の受賞作、《笠間の家》というものがあまして、私はちょうど地震の少し前にあそこに行ったものですから、最初見たときにこんなものがこんなところにあったのかとびっくりしました。

それで、個人住宅を保存するというのはほとんどそういう例がなくて、なかなか難しいのです。伊藤さんのものも、あの《笠間の家》の参考にしたお姉さんの家はもう潰されてしまって、たまたまあれを見て何とかならないかということいろいろなところに声をかけて、偶然笠間市長の息子さんが大学で建築を専攻していて、それで自宅に帰ってきて。

藤森館長：その方は私の研究室だった。

金子副委員長：そうなのですね。友達が伊藤さんのところの事務所に就職したのかな。

それで、市長は何にも反応がなかったのですが、息子さんが、お父さん、あの笠間の家というのがあるのだけれども、あれはどうやって見るのと言ったらええとびっくりしたわけですよ。金子がぎゃあぎゃあ騒いでいた、うるさく言っていたあれがそうかということで、ちょうど地震の後の景観の整備とかいろいろあったものですから、急に保存のルートにするということで、2500万ぐらい出して修理して、外壁がアスベストですから全部取りかえて、非常にきれいにさせていただきました。

残念ながら今回のものはドアしか残っていないのですけれども、個人住宅を保存していくということも非常に大事なことだと改めてきょう感じましたし、この前、松田権六の自宅に残っている、ちょっと振り向くと全部手が届くというような非常に合理的なアトリエを、何とかならないかとここで申し上げたことがあった。何とか近美の工芸館が金沢へ移転するどさくさに紛れてアトリエを金沢に持っていくということで、うまく決着がついたみたいでよかったなと思っています。

それから、これも本当に個人的なあれで、うちの近所に高橋泥舟の自宅跡がありまして、そこによく行くものですから、もともと私は山岡鉄舟のファンなものでいろいろ本を読んでいたりでするので、きょうあれだけたくさん高橋泥舟のものを見られて感激しましたし、

さっきおっしゃっていた肖像画ですね。作者も私はよく知りませんが、あのリアルな顔の表情とかすごく立派な絵だなと思うし、あんなものもあつたのだなとちょっとびっくりしました。これはなかなか貴重な資料ではないかなと思いました。

もう一つおもしろかったのは、近代資料2件の《オリムピック競技場》という本ですね。恐らくあれは、ナチスが主催したベルリンオリンピックですよ。

藤森館長：その後にやろうとしていて、中止になったものです。

金子副委員長：日本はそうですね。

リーフェンシュタールは記録映画をつくっていますから、それと本の図面を比較してみると、ああ、ここに出てくるというようなことが可能なのではないかな。オリンピックイヤーとはいえ、余りベルリンオリンピックをそんなふうを持ち上げるというのはどうか、支障があるかもしれませんけれども、比較して見てみるといいのではないかなと思いました。

もう一つは、これは本当に感想ですけれども、深川の戸口調査がありました。ああいうことをやりながら、ああいうものが特高警察に受け継がれたり、この間も、私はマイナンバーカードをやっとつくったのですけれども、あんなものにつながっていくのかなと思ってちょっと怖い感じがしました。

マイナンバーカードというのは本当にとんでもない制度で、皆さんお持ちでしょうか。私は車を運転できないものですから、顔写真が入った身分証明がないので、この間マイナンバーカードをつくったのです。そうしたら、マイナンバーが表に書いてあって、顔写真は裏にあるのですよね。あれはコピーを出せと言われると、別々になるわけですよ。こんなものでいいのかと思ひまして、それは余談ですが、何とかマイナンバーカードを出せというあの書式を日本全国で統一してもらえないかなと、余り関係ないのですが、戸口調査を見てそういう感じがしました。

きょうは専門のものが余りないので、以上です。

大口委員長：ありがとうございました。

私も一言申しますと、購入資料のほうから言うと、江戸時代の古文書関係では、吉川家文書の中に幕府の勝手方、財政関係の資料が何点か残っています。これは御承知のように、江戸幕府の財政史料というのはまとまったものがほとんど残っていないので、今でも研究者が図書館とかいろいろなところを探し回って、ああ、こんなところにあるのだという新規の発掘が今でもあるので、これも恐らくその新しい資料ではないかと思ひます。まだ内容の細部まで見ているわけではないのでわかりませんが、この奥金蔵の高などは小さな資料ですが、多分新しいデータが入っているのではないかと思ひて、これはここの館蔵になればゆっくり研究の対象になるのではないかと思ひました。

そういう意味では、寄贈資料の中でも「石井良助コレクション」ということで2点だけ挙がっていましたが、これも江戸の天保期の資料2点ですがかなり大きな冊子で、活字やその他と対照してみないとわかりませんが、多分新出の資料が一部は含まれ

ているのではないかと思うので、貴重なものだと思います。

あと、寄贈資料では、園部藩の下屋敷資料ですね。屋敷図が克明に描かれていたもので、今までも尾張藩の屋敷とか、江戸屋敷はたくさんあるわけですがけれども、細部までわかるものは少ないと思うので、大変貴重な絵図だと思います。

私は以上の点だけ申しておきます。

では、神谷先生、どうぞ。

神谷委員：専門のものがたくさんあって、楽しませていただきました。

まず、最初の秀忠の肖像ですけれども、一見して江戸時代後期の大変クオリティーの高い作品で、描表装も含め圧倒的な技術を持って描いている。為恭ということについては、普通はああいう高貴な方への肖像には落款は入れないですから、普通は裏に書いたり、入れるとしても謹んで模写して奉るなんて書くのですけれども、ないので、はて、どうしたかなど。

その当時、江戸時代後期にあれだけの絵を描ける人というのを為恭かなとは思いますが、ただ、私もたくさん見えていますし、為恭展に絡んだことはありますけれども、間違いのないという個人様式的なところから断定できる自信がありませんので、今、為恭をやっている人もそんなにいないので、しばらく伝という形をつけておいていただければいいなとは思いますが。

または、伺ったところによると、当時知恩院で為恭が仕事をしていたということで、それも傍証になると思いますけれども、値段も具体的にはわかりませんが、決して安くはないと思いますけれども、資料価値をどんどん高めていただければと思います。貴重なものだと思います。

私も、名古屋市博物館の尾張藩主の肖像とかみんな集めたいと思ったのですけれども、なかなか肖像画というのは入らなくて、何かのときに非常によく使うのです。あの肖像はないかとか、名古屋だから宗春はないかと言うといつも同じものしか出てこないのですが、そういう意味からしても、この博物館としては大変いい資料になるのではないかなと思います。

あと、浮世絵関係も幾つもありました。団扇絵は大変クオリティーの高いものだと思います。それと、生人形のチラシとそれに関するものが少しありまして、どちらにしても有名なものだと思うのですけれども、当時のいわゆる興行というかパフォーマンス、芸能関係のものというのは、物が残らないのですよね。やったら終わり。歌舞伎に関しては割と錦絵が伝えてくれますけれども、そのほかにもいろいろなパフォーマンスもあって、曲芸みたいなものを別にすると、例えば講釈、講談ですね。それから生人形、落語等とあったのですけれども、なかなか残らないので、浮世絵、錦絵によってそういうものは形だけですけれども残ることが可能なので、そういうものは少し積極的に集めていただいてもいいかなと思っています。

そうやって見ると、当時の人たちは思っていたよりも恐らくいろいろなときに楽しんで

いたと思うのです。歌舞伎は場所も限られますし、料金も高いし、時間も何時間もかかりますけれども、講釈するところは場所もたくさんあって、料金も安くて、手短に終わって楽しめる。そういう人たちの楽しめるパフォーマンスのことをうまく伝える資料かなと思いました。

そのほかでは、地震の資料がありました。名古屋は来年が伊勢湾台風60年で、伊勢湾台風の記憶のある人が、私が65になりますけれどもこれで限界なのです。この60年が最後だぞ、70年になると生き証人がいなくなるからやろうと言って、今、準備していますけれども、そういう災害の資料はずっと継続的に集めていっていただいて、防災に役立てるようにしていただけるといいなと思っています。

名古屋市の場合には、始まって1カ月ぐらいしたときに、完全に流された小学校の1年生から6年生の全員に作文を書かせて、その作文紙が全部残っています。それを出版しようとか、例えばその学校で子供たちが絵を描いて、屋根を破って屋上で待っている人とか、自動車がひっくり返っているところとか、貯木場の木が全部流されてしまい、家を壊すのですけれども、そんなところも描いた絵が残っていたりして、かなりまだレアな、生々しい感じのする資料ですが、防災を考えていくにはそういう直接的な資料というのは非常に訴えやすいので、集めていっていただきたい。

それから、オリンピックのものも大分集まっているかなと思いますけれども、丁寧に集めていっていただきたいと思います。私は60年の東京オリンピックのときのポスターの縮小版みたいなものを何種類か開館前にここに寄附した覚えがあるのです。ええ、もらってくれるかなと思ったら、しょうがないからもらってあげますと言って受け取っていただきましたけれども、めったにない機会ですので、いろいろな資料をもっともって集めておいていただいて。でも、戦前の幻のオリンピックの記録がああやって出てくるとは思わなかったし、見てみると、今、これをつくっても使えそうみたいな建物ですよ。周りの環境が全然違いますけれども、当時原宿のところにつくっていたのは何もなかったでしょう。要するに、原っぱをつくったのでよかったと思いますけれども、まだまだ集めていただきたいと思います。

以上です。

大口委員長：ありがとうございました。

では、松尾委員、お願いします。

松尾委員：この委員会で毎回感じることですが、こういう資料がまだ残っていたのかという感じがきょうもいたしました。

特に購入資料、寄贈資料両方ですが、幕臣の家の資料が、吉川家文書、それから、これはどこから出たものかわかりませんが、天保改革関係の資料であるとか、何と言っても高橋泥舟の資料は本当に充実していて、こんなにいい資料がまとまっているのだとちょっと驚きました。

個別的には、吉川家文書については、大口先生もおっしゃいましたように、幕府の財政

関係資料であるとか、これは寄贈のほうですけれども、石井良助関係の資料の中で天保改革の御触の覚、それから天保改正見聞録。見聞録のほうは11代將軍家斉が死去したときの葬列なども描かれておりまして、丁寧に見ればいろいろな事実が記録されている資料です。これも中を丁寧に読んでみる必要があるなという感じです。

それと、高橋泥舟関係は、泥舟自身の会話であるとか日記、それから、屏風仕立てになっているいろいろな文、絵、それぞれ興味深いものだと思いますが、泥舟と山岡家は大変近い親戚関係にあるようですけれども、その両家の関係がわかる資料であるとか、泥舟の先代、義理の父が務めたいろいろな役向きの資料。あと、何と言っても子供のやりとりですね。先ほどもお話がありましたけれども、おはじきの遊びにかかわって、徳川家のお嬢さんたちが小さい手紙を模したやりとり。あれは今後、明治時代の子供たちというような展示に生きるのではないかなと思ったりして見ておりました。

それから小出家の、これは中屋敷か下屋敷かと思ったのですけれども、下屋敷ということだそうで、びっくりしたのは、この小出家の屋敷替で、小出家の屋敷が、私も縁が深い徳川黎明会林政史研究所の敷地を与えられたというようなことを伺いまして、何と言ってもこの絵図に描かれている、1万坪あまりあるのですけれども、その中にさまざまなしつらえといいたいまいしょうか、一里塚があったり、あるいは鉄砲の稽古場もあったり、この時期の大名屋敷の中の様子がよくわかるとてもよい絵図だなと思いました。

ほかにもいろいろ興味深いものばかりだったのですけれども、高橋泥舟は海舟や山岡鉄舟とともに三舟展みたいなものをぜひ開いていただいて、こうした資料が多くの方の目に触れられるような機会があればいいなとも思った次第です。

以上です。

大口委員長：では、最後になりましたが、根崎委員、お願いします。

根崎委員：私は、今回、初めて出席させていただきましたが、どういう資料が出てくるのだろうか大変わくわくして拝見させていただきました。

全体的に、購入資料、寄贈資料含めて、江戸博の収蔵資料としてふさわしく、これからもいろいろ役立って活用できる資料だなと思って拝見させていただきました。

すでに先生方からもお話がありましたように、1つは購入資料の吉川家の古文書であります。実は私、かつて学芸員をやっておりましたときに、吉川靈華の展覧会を企画したことがあります。吉川靈華を調べていましたときに、吉川家が元々幕臣だということはもちろん存じ上げており、個人的にはそちらのほうにも大変興味があったのですが、吉川家は吉川靈華が亡くなった後、奥様が大変生活に苦慮されているというような事情があって、資料がそのときかなり散逸されたというように伺っておりました。

吉川靈華の美術品のほうについてはコレクターが数多く、かなりまとまった作品をお持ちの方がいらっしゃいました。特に、その方は御遺族との関係があって、靈華の印鑑などお持ちでした。その後、いくつかの美術館にその方のコレクションが散ったということは聞いております。

実際、幕臣吉川家の古文書を拝見させていただいて、先ほど大口委員長も言われたのですけれども、勝手方資料は初めて拝見させていただいたのですが、新たな歴史として組み込める部分もあるのではないかと思います、特に年貢関係の資料は大変貴重なものではないかと思いました。

それから、「石井良助コレクション」なのですけれども、実はこれも、私、前に千葉県史編さん室というところにいたことがありまして、千葉県の県史編さんに石井先生がかかわっておられた関係で、県庁のロッカーの中に石井コレクションの古文書がたくさんあり、おそらく寄贈されたものだったのかなと思うのですが、目録をとったりしました。石井先生が古本屋から持ち込まれたものをかなり大量にお買いになっているという話もそのころお伺いしたわけです。今回、こちらで収蔵されるものは町方関係の資料で、かなり分厚い古文書であります、貴重なものだと思って拝見しました。

ただ、2点のうち1点のほうはかなり破損が進んでおりましたので、かなりお金のかかることではあります、できるだけ予算があるときに修復していただいて、公開できるということになればかなり有効な資料だろうと思います。修復予算を確保するというのはなかなかこの館でも難しいのだろうと思いますけれども、できるだけ早目に修復されて公開していただけたらと思いました。

もう一つは、小出家の下屋敷の絵図でありますけれども、実は、こういう大名屋敷の絵図というのはその幾つかはわかってはいるわけですが、大分内容が違うものだなと思いました。庭のつくり方一つにしても、おそらくそれぞれの大名の趣味とか考え方が多分入っていて、庭づくりが行われているのだろうなと思いました。

特に、特徴として、ほかの大名屋敷と違うなと思いましたのは、大名屋敷には本人の寝泊まりする部屋がもちろんあるのだろうと思って見ていたのですが、どうも家臣の長屋部屋が多いということにびっくりしました。

私はこの絵図がいつごろ作成されたのかということは、はっきりと時代を鑑定できるほどの力はないのですけれども、構図や絵の具などからみて、恐らく江戸の後期から明治の前期ぐらいまでのあたりに描かれたものではないのかなとお見受けいたしました。また御用絵師が描いた絵図というよりは、ちょっと絵心がある人が描いたものなのかなと思いました。

只今申上げましたように、ほかの絵図などに見比べてみましても、大分特徴のある屋敷絵図だったように思いますので、これも先ほどもお話がありましたけれども、一大名の屋敷図として模型などをつくれればよりリアルに、大名屋敷の一端もわかるかなと思いました。

また、あれだけ屋敷全体に池の水が回っているというのもかなり特徴的な屋敷なのかなと思いました。回遊式庭園とはいえ屋敷全体に水が回っていますので、どういうふうに水の管理をしたのだろうかというようなことも大変興味を持って拝見しましたので、ぜひこれでもできるだけ早い段階で公開していただけると、いろいろな分野の研究者の方がいらっしゃると思いますし、庭園研究の方もいらっしゃるので、参考になるのではないかと思います。

ました。

以上です。

大口委員長：ありがとうございました。

皆さんからお話を伺いましたが、私、1点だけさっき言おうと思って忘れたことがありますので、この目録の最後の48ページに定期刊行物の図書の購入状況がありますが、これの歴史学研究所の発行所が青木書店となっていますが、これは現在青木書店から変わっているのではないのでしょうか。私、確認していないのですけれども、気になったのでそこだけ点検してみてください。

それでは、ほかの方、何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、皆さん諸委員の発言によって、きょう拝見した資料についてこの本委員会として収集を承認することによろしいでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

大口委員長：皆さんの異議なしの声でもって、賛同を得たものとみなして、ここで収集を承認することを決定いたします。

これをもちまして、我々の審議は終了といたします。どうもありがとうございました。

藤生文化施設担当課長：大口委員長、ありがとうございました。

本日の資料収集部会の議事録につきまして、冒頭にて説明させていただきましたが、改めて申し上げます。当部会の議事録は資料収集決定後、公開を予定しておりますので、支障のある内容がないか事前に確認させていただきますので、よろしくお願いいたします。

これをもちまして、平成30年度第2回「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料収集部会」を終了いたします。

皆様、ありがとうございました。

午後0時04分閉会

以上